

「思う」を合わせて32・9%で、有料化に対する一定の理解を示す結果となった。粗大ごみのリクエスト収集への希望は、処理困難物を回収できる制度にしてみたいなど、多くの意見があった。

問 有料化に32・9%の一定の理解。一方で、「あまり思わない」と「全く思わない」を合わせると56・7%。これは意見、異議ありの方が多くいたと捉えることができるが。

答 アンケートで約3分の1の方に理解を得た。環境意識の高まり、ごみ排出時の利便性の向上と、ごみ処理費用の負担の公平性を求める声が増加していると考えている。

問 第4回目の審議会でも説明があった1次答申の内容は。

答 3月に審議会より、「ごみの減量・資源化に向けた今後の施策の在り方について」1次答申があった。1つ目は少子高齢化の進展など社会構造の変化に伴う多様化・高度化する市民ニーズに対応するため、利便性の向上と負担の軽減などを旨とし、戸別収集の対象品目を拡充するなど収集体系の見直しを図る。2つ目は、粗大ごみについて、ご

みの減量・資源化や排出量に応じた費用負担の公平化などを目的として、有料によるリクエスト方式の戸別収集の導入を進めるものである。

問 有料のリクエスト方式を導入している県内の状況は。

答 12市中8市。そのうち有料は4市である。

問 本市の料金体制は。

答 審議会等の途中であり、これから検討していきたい。

檀原市の地域公共交通

問 4月16日から運行開始の檀原神宮イオンモール線、檀原神宮観音寺線の2つのバス路線の記念式典等は。

答 重要な路線ではあるが、奈良交通が通常行なう路線バスの開設である。ルートなどの試験的運行という意味合いから、現在は予定していない。

問 新路線の周知は。

答 沿線自治会への説明会などで広報してきた。また広報の4月号で詳細に知らせたい。発着となる檀原神宮前駅や、

イオンモールの館内外へのインフォメーションによる周知もお願いしている。沿線にある高等学校や公共施設など定期利用が見込まれる所へは、定期券やICカードの利用案内を行っている。

問 イオンモールでの乗り継ぎの待ち時間。県住川西団地から医大までの時間や費用は。

答 新路線は、1日7便、約90分間隔で往復する。八木イオンモール線は、15分間隔で発着するため、大きな待ち時間はないと考えている。川西バス停から、医大は乗り継ぎ時間を合わせて約30分。料金は、2路線とも、1乗車290円で、5枚つづりのチケットなら、1乗車200円となり、川西バス停からイオンモールで乗り継ぐと片道400円になる。

問 市内北西部の公共交通の現状と今後は。

答 この地域の公共交通の検討は後になっているが、今後の高齢者社会を見据えて検討の必要性は認識している。

問 コミュニティバス、デマンドタクシーなどの他市町村の取り組みは。

答 コミュニティバスは、7

市町。デマンドタクシーは8市町村で実施している。

問 今後の取り組みについて市長に聞きたい。

答 今後新たな都市整備ができれば当然新たな路線も必要になってくる。これは本市だけで行なうものではなく、県とも近隣市町村とも公共交通会議を行なっている。これは守っていく会議ではなく攻めていく会議である。これから新しい路線を考えチャレンジしていきたい。



新規路線バス（檀原神宮前駅西出口）

八木駅南の住民訴訟の影響

問 八木駅南の複合施設の建設について、公金差しとめ等請求がされている。監査請求をしないと住民訴訟ができないうと思うが、監査請求の結果について聞きたい。

答 本市とPFI八木駅南市有地活用株式会社（SPC）が平成27年2月付で交わした八木駅南市有地活用事業契約については、同年の3月議会に議決承認され本契約として成立した。その本事業契約が、地方自治法の指定管理者制度、または民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律の公共施設等運営権、そのいずれも使用しておらず、違法・不当な点を含む本事業契約は無効なものとして、一旦解約して見直しをするべきとして提出された。監査結果としては、委員3人の合議により、同年12月付で、請求人らの主張には理由がないとして棄却された。

問 実際に4月、5月から工事を始めるのか。

答 SPCとも話をしており、

一般質問
宇佐美 孝二
(新星檀原)